

自由意見欄に寄せられた主なご意見

- 区内の道幅が狭いので、整備してほしい
- 歩行者や自転車が安全に通行できる道路づくりをしてほしい
- みどり豊かな、落ち着いたまちが良い
- 現在の住環境を維持していきたい
- 子供から高齢者までが一緒に過ごせる広い緑地・公園がほしい
- 災害に強いまちにしたい
- 白子川の景観が良くなるとうい



第6回～第8回まちづくり協議会の開催内容について

第6回～第8回のまちづくり協議会では、地区全体のまちづくりの方向性について話し合いを進めました。
また、第7回までの検討内容を基に「まちづくり提言書(中間まとめ)」、「アンケート」を作成しました。

意見交換の様子(第6回)



意見交換の様子(第7回)



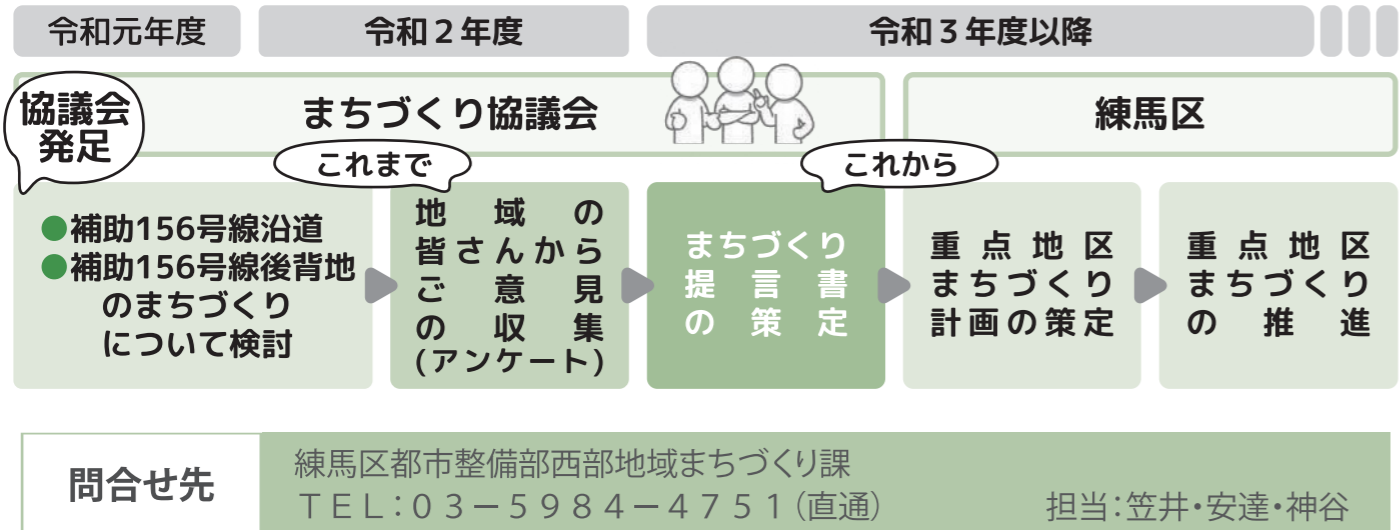
回	開催日時	出席者	議事項目
第6回	令和2年6月25日(木) 19時～20時30分	17名	・補助156号線沿道のまち並み(将来像) ・区内の道路/地域資源/建物の建て方
第7回	令和2年10月22日(木) 19時～20時30分	14名	・建物の建て方 ・まちづくり提言書(中間まとめ)
第8回	令和2年12月下旬 ～令和3年1月下旬	書面にて実施	・まちづくり提言書(中間まとめ) ・アンケート調査内容

※第6、7回は「大泉第六小学校 体育館」で開催しました

※第8回は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえ、郵送で意見の集約を行いました

今後のスケジュール

まちづくり協議会では、これまで検討した内容や、アンケートでいただいたご意見を踏まえ、「まちづくり提言書」を取りまとめます。



補助

156

号線沿道周辺地区

まちづくりニュース

補助156号線沿道周辺地区のまちづくりに関するアンケート調査の集計結果(概要)をお知らせします!

補助156号線沿道周辺地区まちづくり協議会では、安全で快適なまちの実現を目指して、補助156号線沿道のまち並みの将来像や、沿道周辺を含むまちづくりについて検討を進めています。

令和3年2月、本地区に関わりのある皆さまを対象に、これまでまちづくり協議会で検討した内容についてアンケート調査を実施しました。

今号では、アンケート調査の集計結果(概要)をお知らせいたします。

アンケート調査の概要

- <調査期間> 令和3年2月5日(金)～2月19日(金)
- <調査対象> 右図の地区に「お住まいの方」、「土地・建物の権利をお持ちの方」
- <回収結果> 配布数:5,939部 (地区内配布:5,383部、地区外郵送:556部)
回収数:1,534件 (郵送回答:1,225件、電子回答:309件)
回収率 25.8%

調査の対象範囲(補助156号線沿道周辺地区:□)



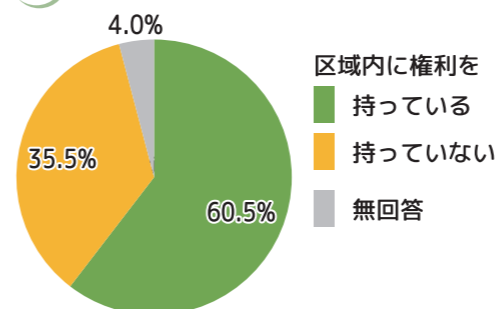
ご協力いただきありがとうございました!

地区全体に関する結果は2,3ページをご覧ください

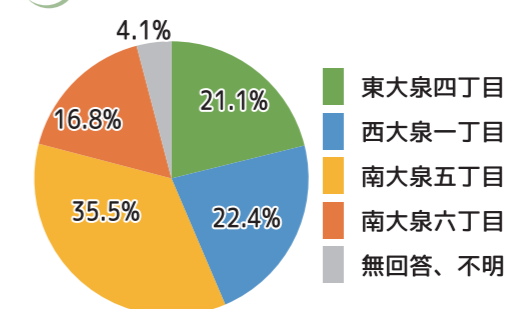
補助156号線沿道に関する結果は3ページをご覧ください

ご回答いただいた方について

土地・建物の権利の有無



権利をお持ちの町丁目



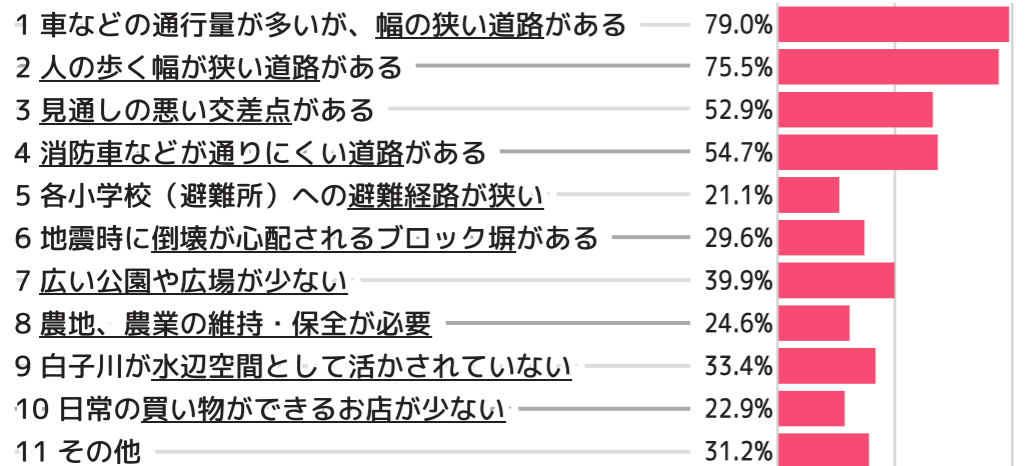
「区域内に権利を持っている」が60.5%、その内訳は、東大泉四丁目…21.1%、西大泉一丁目…22.4%、南大泉五丁目…35.5%、南大泉六丁目…16.8%となりました。

※端数処理の関係上(小数点以下第2位四捨五入)、合計が100%にならない場合があります

地区全体について



問1 まちの課題として感じていること

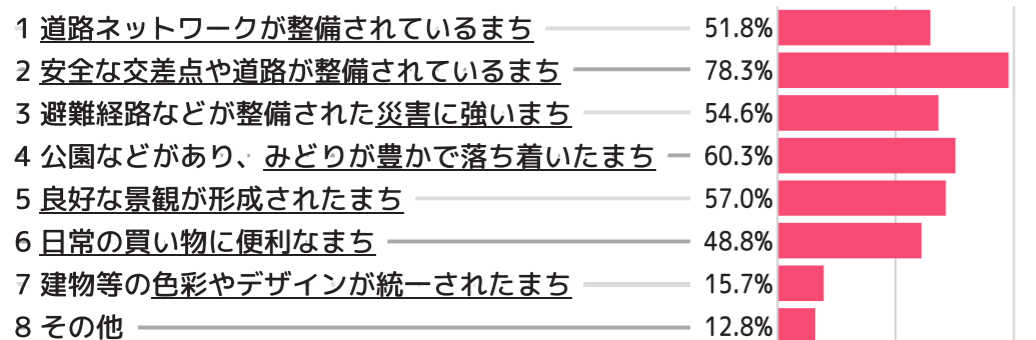


(問1～問3-4は複数回答)

●車などの通行量が多いが、幅の狭い道路がある
●人の歩く幅が狭い道路があるが7割以上と道路に関する回答が多い結果となりました。
また、約4割の方が●広い公園や広場が少ないと回答しています。



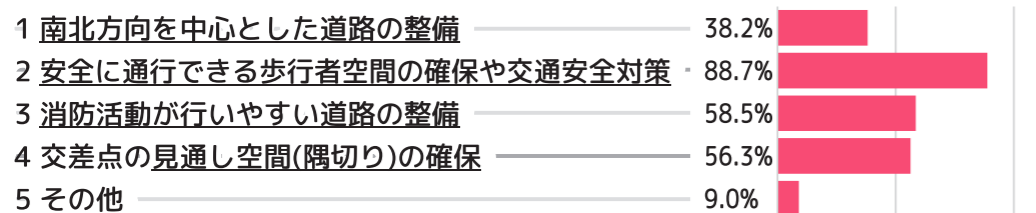
問2 今後の望ましいまち並み



●安全な交差点や道路が整備されているまちが約8割と、問1と同じく道路に関する回答が多くなりました。
また、●公園などがあり、みどりが豊かで落ち着いたまち●良好な景観が形成されたまちも約6割の回答がありました。

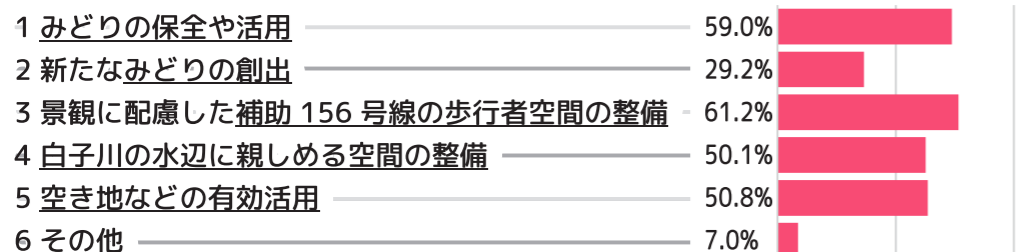
望ましいまち並みを実現するために必要なこと

問3-1 道路



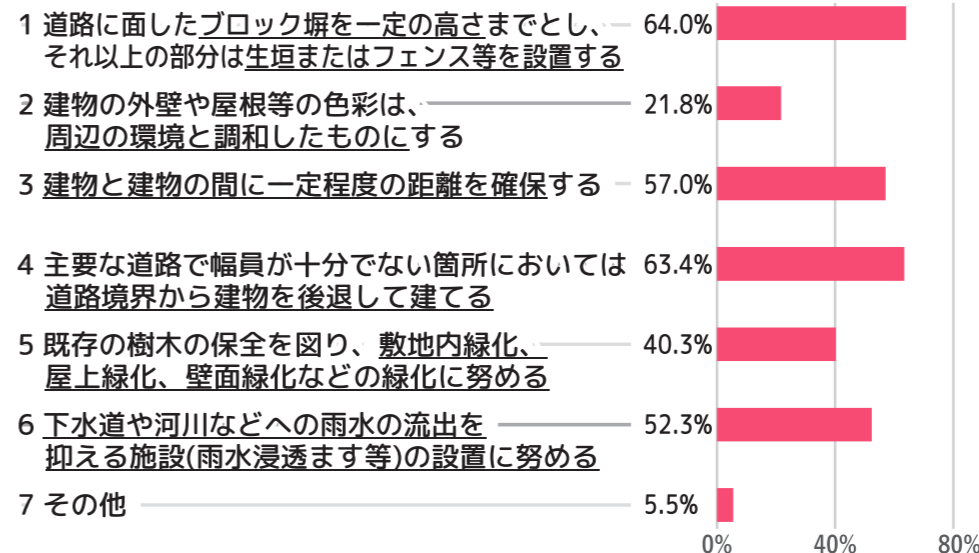
●安全に通行できる歩行者空間の確保や交通安全対策は約9割の方が選択し、関心が高い結果となりました。
次いで、●消防活動が行いやすい道路の整備●交差点の見通し空間(隅切り)の確保も5割以上の回答がありました。

問3-2 みどり・景観・地域資源



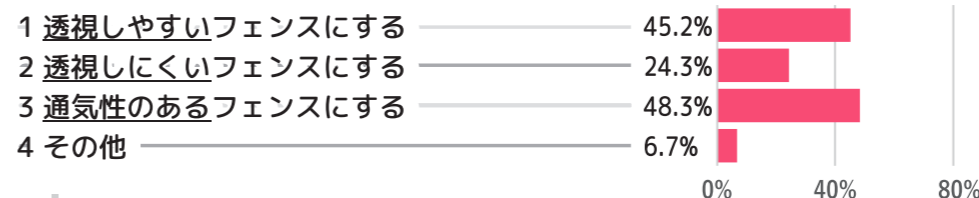
●景観に配慮した補助156号線の歩行者空間の整備●みどりの保全や活用に約6割の回答がありました。
次いで、約5割の方が●白子川の水辺に親しめる空間の整備●空き地などの有効活用を選択しています。

問3-3 建物の建替ルール



●道路に面したブロック塀を一定の高さまでとし、それ以上の部分は生垣またはフェンス等を設置する
●主要な道路で幅員が十分でない箇所においては道路境界から建物を後退して建てるに6割以上の回答がありました。
次いで、●建物と建物の間に一定程度の距離を確保する●下水道や河川などへの雨水の流出を抑える施設(雨水浸透ます等)の設置に努めるも5割以上という結果となりました。

問3-4 フェンスのイメージ (問3-3で1を選択した方のみ回答)



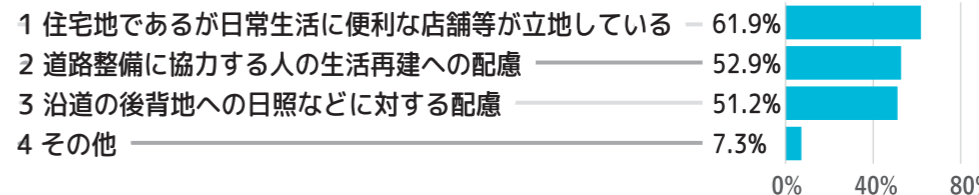
フェンスを設置する場合のイメージとして、4割～5割の方が●透視しやすいフェンス●通気性のあるフェンスと回答しました。

補助156号線沿道について



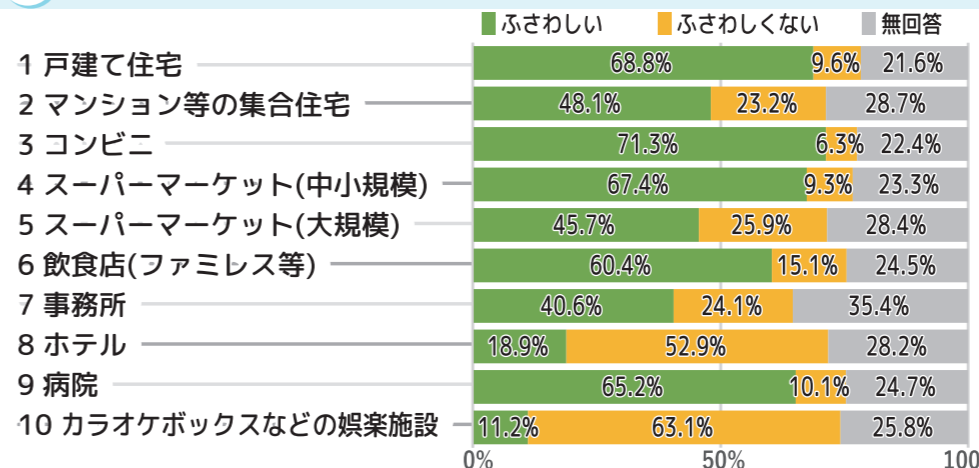
(問4は複数回答)

問4 沿道のまち並み形成で大切にしたいこと



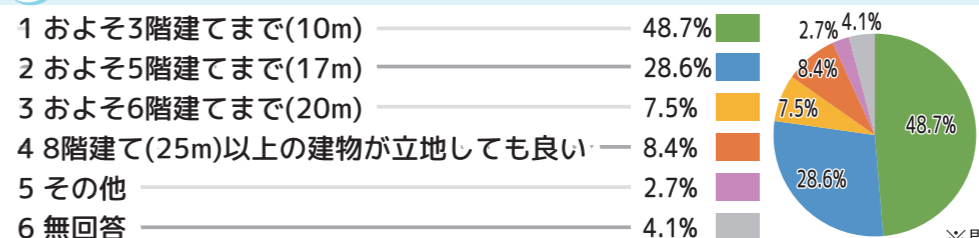
各選択肢とも5割～6割と大きな偏りなく回答がありました。

問5-1 沿道にふさわしい建物、ふさわしくない建物



ふさわしい建物として、●戸建て住宅●コンビニ●スーパーマーケット(中小規模)●飲食店(ファミレス等)●病院
ふさわしくない建物として、●ホテル●カラオケボックスなどの娯楽施設が多い結果となりました。

問5-2 沿道に新たに建つ建物の高さのイメージ



建物の高さのイメージについては、●およそ3階建てまで…48.7%●およそ5階建てまで…28.6%となりました。

※問5-1、問5-2のグラフについては、端数処理の関係上(小数点以下第2位四捨五入)、合計が100%にならない場合があります